

道づくりだより

第15号

2009. 5 島根県道づくり調整会議



日本三大船神事『ホーランエンヤ』と宍道湖大橋

CONTENTS

1. 都市計画道路 今市古志線 供用開始について
2. 皆合・越沢農道竣工！！
3. 自転車通行環境整備事業について
4. 道路ネットワークを有効活用した標識整備
5. ゴールデンウィークの高速道路利用状況
6. 「第2回島根県道路懇談会」を開催しました

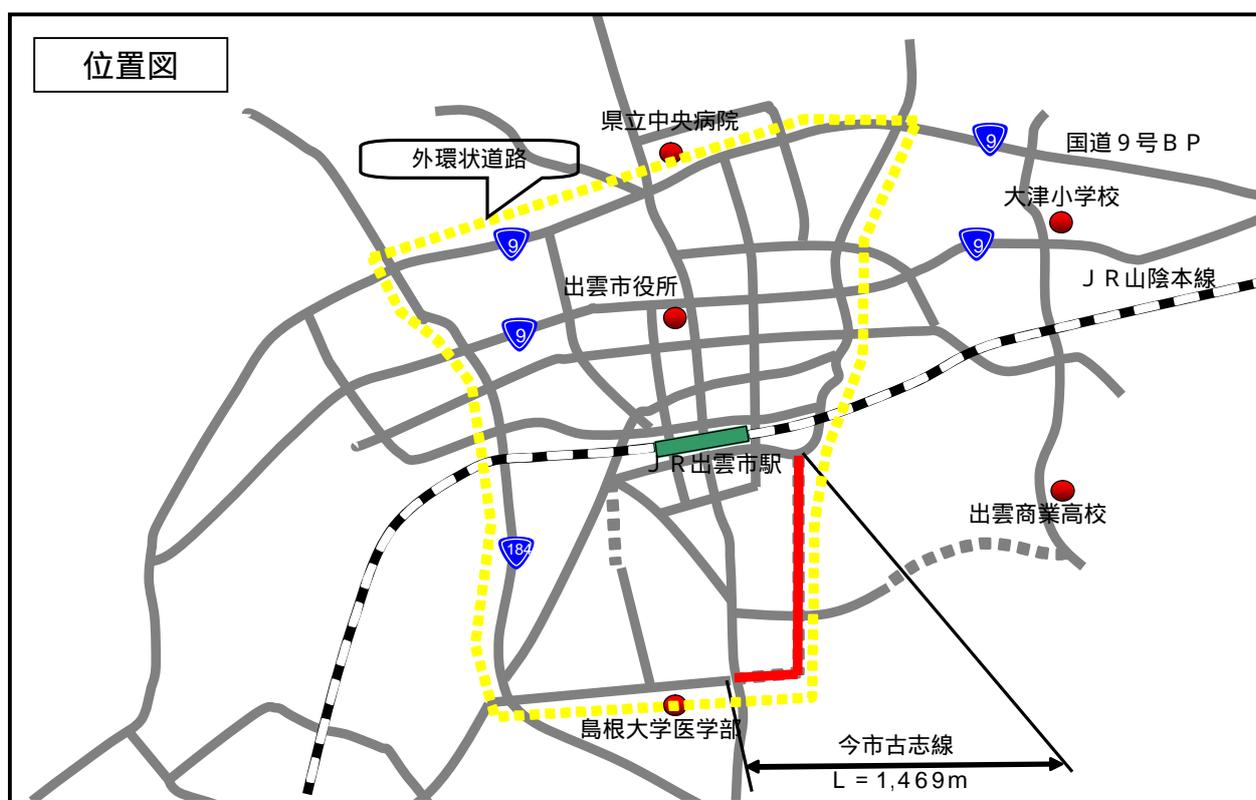
『都市計画道路 今市古志線』 供用開始について

(一般県道 多伎江南出雲線バイパス)

出雲市今市町～上塩冶町において事業を進めていました都市計画道路今市古志線（一般県道多伎江南出雲線）が、平成21年3月24日に供用開始しました。

当工区は、出雲市の外環状道路の一部として市内交通の円滑化を図ると共に、島根大学医学部附属病院への連携強化を目的として平成15年度から事業着手し、工事を進めてまいりました。

当該路線の完成により、島根大学附属病院への通院、緊急時における防災道路としての役割、市内交通円滑化等に大きく寄与するものと考えています。



【事業概要】

路線名	都市計画道路今市古志線 (一般県道多伎江南出雲線)
事業期間	平成15年度～平成20年度
事業費	約4.1億円
計画延長	1,469m
計画幅員	25m
道路規格	第4種第1級
設計速度	60km/h



皆合・越沢農道竣工!!



【事業概要】

地区名 : 皆合・越沢 (ミワ・オツノ)
事業名 : 基盤整備促進事業
事業期間 : 平成14年度～平成20年度
事業箇所 : 浜田市金城町今福・入野
総事業費 : 390,000千円
受益面積 : 24ha
延長 : L = 1,590m
幅員 : 全幅5.00m (有効幅員4.00m)
道路規格 : 3種5級
設計速度 : 30km/h (20km/h)
周辺施設 : 美又温泉・金城CCなど

【事業目的とその効果】

浜田市金城町にある皆合・越沢地区の営農は、水稻を基幹として大豆・キャベツ、栗などの栽培に力を入れ、積極的な農業経営に取り組んでいるところです。

しかし、整備前の農道は平均幅員3m未満と狭小のうえ、急勾配、急カーブの箇所が多数あり見通しも悪く、主要な農業施設や市役所支所、消防署などと接続している主要地方道桜江金城線へのアクセスが非常に不便でした。

このため、農産物資等の輸送や大型農業機械の導入の妨げとなっていることや、緊急車両の進入が困難なため、住民生活の安全にも支障をきたしていることから、早期の整備が望まれていました。

そこで、浜田市では延長1,590m・全幅員5.0mの農道の整備を平成14年度から開始し、平成21年3月に完了したところです。

この間、地権者をはじめ、工事関係者のみなさまのご協力に、深く感謝申し上げます。

本農道が、農産物の輸送の改善や、農業経営の効率化・安定化に寄与し、また、生活環境の改善や地域の活性化に大いに役立つよう願っています。

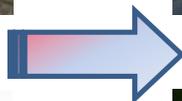
(浜田市金城支所産業課)



整備前



整備後



自転車通行環境整備事業について

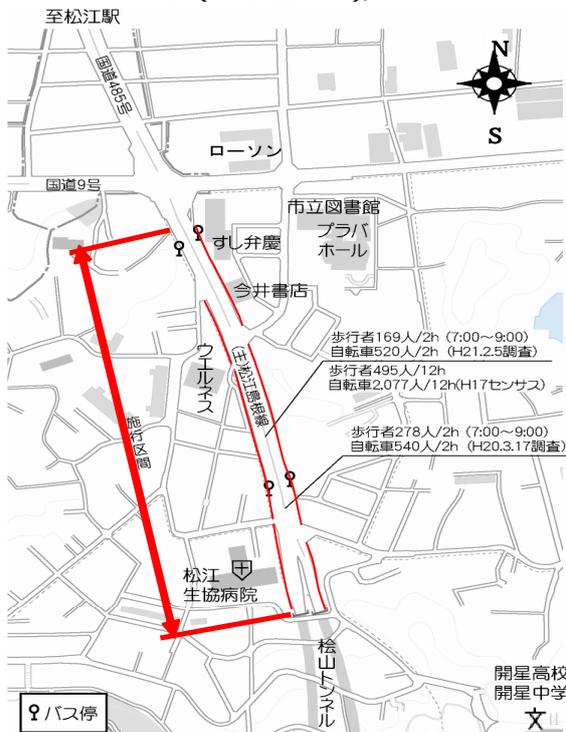
近年、自転車と歩行者の交通事故が増加していること、また、自転車は環境にやさしい乗り物であることから、歩行者と自転車が安心して通行できる環境を整備していくことは、市街地における今後の重要な課題となっています。

島根県においても、昨年度、中高生の通学路等で歩行者・自転車利用者の多い主要地方道松江島根線（国道9号線～桧山トンネルの区間：島根県松江市西津田地内）において、歩行者通行帯と自転車通行帯を視覚的に分離する方法でモデル的に実施しましたのでご紹介します。

【整備内容】

整備箇所 主要地方道松江島根線（国道9号線～桧山トンネル区間：松江市西津田地内）

整備内容 歩道の半分（家側）を緑色にカラー舗装するとともに、歩行者・自転車マークを歩道に張り付け、歩行者通行帯と自転車通行帯（車道側）の視覚的分離を行いました（下図参照）。

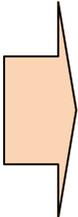


整備後

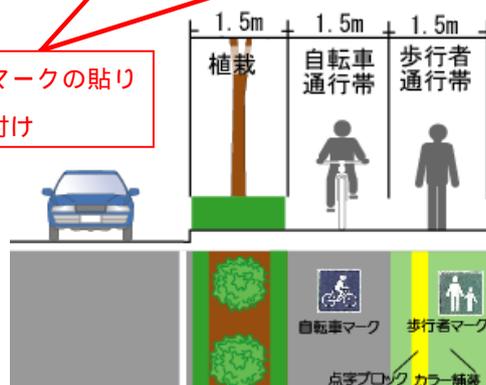
家側のカラー舗装（緑色）



整備前



マークの貼り付け



【整備後の状況】

歩行者通行帯と自転車通行帯（車道側）の視覚的分離の整備を行った結果、歩行者及び自転車の通行状況等に以下のような変化がみられました（整備前後のビデオ観測及び通行者へのアンケート調査結果による）。

歩行者が家側を歩き、自転車が車道側を走る割合が大きくなりました。

歩行者と自転車が交錯する回数が少なくなりました。

歩行者も自転車も走行スピードが少し早くなりました。

歩行者は約 6 割、自転車利用者は約 5 割が整備前より安全性が向上したと感じています（歩行者、自転車利用者のそれぞれ残り約 4 割、約 5 割は安全性は変わらないと感じています）

整備前



整備後



歩行者も自転車の通行位置がバラバラで、歩行者と自転車が交錯している。



歩行者は緑色の通行帯を歩き、自転車は車道側を通行しており、互いに交錯している状況は見られない。

【まとめ】

このたびの試行によって、人と自転車を柵などで物理的に分離する方法ではなく、歩道内のカラー舗装、マーク表示により視覚的に分離する方法でも、歩行者の安全性の向上にある程度効果があることが分かりました。今後も、歩行者と自転車が安心して通行できる環境整備を工夫しながら進めていきたいと考えております。

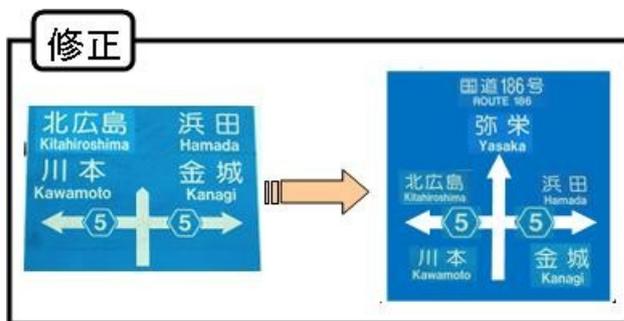
道路ネットワークを有効活用した標識整備

道づくり調整会議を活用した標識整備事例について（浜田地区）

島根県では、より効果的な道路整備を行うため、本庁及び各事務所単位で調整会議を設置し、国県道・農林道・市町村道と一体となったネットワーク整備や道路の利活用を進めています。

このたび、那賀西部広域農道の開通に伴う標識整備において、調整会議を有効活用し、道路利用者の立場にたった案内標識の検討が行われました。

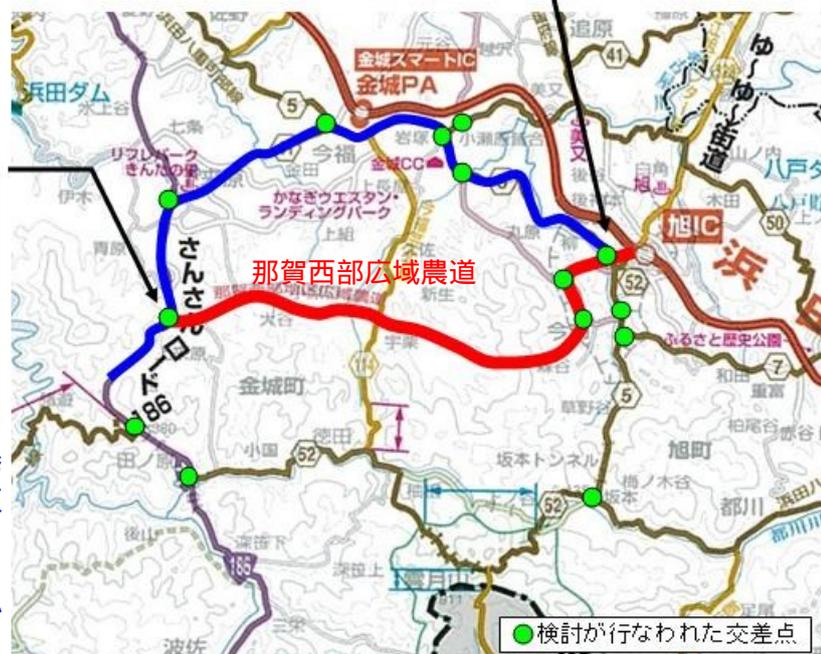
浜田県土整備事務所農道整備第1Gが中心となり、同事務所維持G、浜田市金城支所・旭支所によるワーキンググループを立ち上げ、標識の修正案を作成。その後、調整会議にて検討・調整することにより、道路利用者にとって安全で分かりやすく効率的な標識整備が行なわれ、38箇所の案内標識の改善が図られました。



・旭ICからの道路利用者のために、農道開通に併せて案内標識を修正。国道186号への案内を農道へと誘導することで、走行距離・時間が短縮された。



- ・旭ICへの案内を農道へ誘導することにより、走行距離・時間の短縮。
- ・金城スマートICの表示を追加することで、より分かりやすく。



その他の交差点でも分かりやすい案内標識の整備が行なわれています。

今回の事例を参考に、県内各種道路のネットワーク・案内標識の現状を調査把握し、案内標識の改善案を作成することとしています。その改善案をもとに地区道づくり会議でさらに詳細な検討、調整を行ない、道路利用者のために安全で効率のよい案内標識の整備を進めていきます。

ゴールデンウィークの高速道路利用状況

E T C 休日特別割引（上限 1 0 0 0 円）の効果で軒並み前年比増

島根県内の高速道路（米子道を含む）のゴールデンウィーク期間中の利用状況を、下表のとおりまとめました。各路線の一日平均交通量は、E T C 搭載車を対象にした休日特別割引（上限 1 0 0 0 円）の導入効果で、平均 1 2 % の増加となりました。その結果、県内の各観光地もたくさんの人出で賑わいました。

道路名	H21 日平均台数	H20 日平均台数	/
山陰自動車道 （松江玉造 IC ~ 宍道 IC 区間交通量）	10,900	10,700	101.9%
米子自動車道 （溝口 IC ~ 米子 IC 区間交通量）	15,000	13,000	115.4%
浜田自動車道 （金城 SIC ~ 浜田 JCT 区間交通量）	7,400	6,200	119.4%
安来道路 （各料金所出口の通過台数）	15,100	14,400	104.9%
江津道路 （各料金所出口の通過台数）	2,500	2,100	119.0%

H21 ゴールデンウィーク時期 【平成 2 1 年 4 月 2 5 日（土）～ 5 月 6 日（水）】
H20 昨年同期 【平成 2 0 年 4 月 2 5 日（金）～ 5 月 6 日（火）】

参考 通常期 [平成 2 1 年 3 月]

山陰自動車道（松江玉造 IC ~ 宍道 IC 区間交通量）8,200 台/日

米子自動車道（溝口 IC ~ 米子 IC 区間交通量）6,800 台/日

浜田自動車道（金城 SIC ~ 浜田 JCT 区間交通量）3,500 台/日

N E X C O 記者発表資料による

高速道路推進課では、高速道路のさらなる利用促進に向けて、割引制度の恒久化と山陰道など高速道路ネットワークの早期完成を国に訴えていきたいと考えています。

【E T C 割引の観光集客策を公募の中から決定】観光振興課

観光振興課が、高速道路を利用した県外からの宿泊客を増やすことを目的に集客事業の公募を実施し、先日松江市の企画会社が提案した観光集客策が採用されました。中国、四国、関西の高速道路サービスエリアで配布されたアンケートに答え、県内の宿泊施設でスタンプを押してもらった人に、抽選で島根和牛や仁多米などの県産品が当たるというもので、6月から3ヶ月間実施されるということです。

「第2回島根県道路懇談会」を開催しました

島根の新たな道づくりビジョンの改定について

島根県では、今後の島根の道づくりの目指すべき方向性を明確にするため、平成15年1月に「しまねの新たな道づくりビジョン」を策定していますが、策定から一定期間を経過したうえ、道路特定財源の一般財源化をはじめ道路事業を取り巻く環境が大きく変化していることから、これまでの現状と課題を再整理し、ビジョンを改定することといたしました。

第2回島根県道路懇談会

第1回懇談会（H21.1.16）での委員の皆さまの意見や昨年度（H20.11）実施した県民アンケートの結果等を踏まえ、ビジョンの改定素案を作成しました。このたび、有識者から幅広いご意見をいただくため、第2回懇談会を開催しました。

日 時：平成21年5月13日（水）14：00～16：00

場 所：島根県民会館 3F 大会議室

議 事：第1回議事要旨
道づくりビジョン改定素案
今後の懇談会の進め方
意見交換

懇談会委員（50音順、敬称略）

- ・ 浅田 純作（座長）（松江工業高等専門学校教授）
- ・ 伊瀬 孝子（松江商工会議所女性会理事）
- ・ 板垣 良典（（社）島根県旅客自動車協会専務理事）
- ・ 小田 博之（NPO 法人ひろしまね副理事長）
- ・ 柳田 雅彦（（株）山陰中央新報社地域振興局開発部長）
- ・ 高橋 克弘（（株）エル・アイ・ビー代表取締役）
- ・ 柘田ひとこ（フリーアナウンサー）

懇談会の状況



懇談会では、素案に対して「情報量が多くわかりづらい。幅広い年齢層にわかりやすい表現に工夫を」、「行政用のビジョン、一般向けのビジョンなど複数あってもよいのでは」といった意見や、「B/Cは確かに重要だが、最優先の評価基準にするには疑問を感じる。地方はもっと道路の必要性を提示していく必要がある」、「社会貢献型のNPOを支援するなどハートフルロードをさらに発展させた維持管理の制度を考えてみては」などの意見が出されました。

今後の予定としては、これらの意見を踏まえ、ビジョン（素案）を修正し、パブリックコメントの実施及び市町村等関係機関の意見を聞いたうえでビジョン（案）を作成し、第3回懇談会を開催することとしています。

「島根県の道路事業に関するアンケート」の結果は下記 URL に掲載しています(PDF:368KB)
http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/kensetsu/seibi_kaikaku/newvision.data/Questionnaire.pdf